

はじめに

国立大学法人化以降、個々の法人に与えられる自律性は大きくなり意思決定可能な領域も広がった。それとともに、意思決定のための調査研究活動の必要性も格段に高まった。適切で合理的な意思決定を行うためには、たしかに現状の把握と課題の分析が不可欠だからである。高等教育機関において IR (Institutional Research) の重要性が近年さかんに主張される所以である。

本書は、お茶の水女子大学の学部・大学院に在籍するすべての学生を対象とした生活と意識に関する調査結果をまとめた報告書である。本学学生が、本学の教育、入試、学生支援、情報環境、国際交流等についてこれをどう評価しているのか、どんな意見やニーズを持っているのか。また日常的にどのような学習行動や生活を行っているのか。これらを調査することによって、本学の教育、学生支援等の改革・改善に活かしていくための基礎的資料を得ることが目的である。

平成22年度は、第二期中期目標・中期計画期間の初年次に相当する。したがって、この調査は第二期における本学の諸施策を評価する上で、ベンチマークとしての意味も持っている。

この調査は、学長を本部長とする全学教育システム改革推進本部における検討を経て、教育開発センターが実施した。今回の調査では、個人情報保護に配慮しつつ、Pione を用いた Web 調査を試行した。Web 調査は、設計上の工夫により回答がしやすく、かつ印刷や入力に要する時間と費用を大幅に節約することが可能な、効率的な調査方法である。今後とも活用を測っていきたい。

調査の意義は、実施したことにあるのではなく、それを活かすことのできた時点で、はじめて生まれる。データの活用を期待したい。

平成23年3月吉日
お茶の水女子大学 理事・副学長
教育機構長 耳塚 寛明

目次

はじめに

目次	1
執筆担当者	2
1. 調査の概要	3
1. 調査の目的	
2. 調査期間と方法	
3. 回収状況	
4. 回答者の属性	
5. 質問項目	
6. 今後の課題	
2. お茶大の教育	7
1. 学部教育	
2. 大学院教育	
3. 少人数教育への評価	
4. 教員指導に対する評価	
5. お茶大で身についたこと	
6. お茶大の教育に対する評価	
7. 授業への取り組み方（学部）	
3. 教育施設・大学整備	24
1. 本学の教育施設・設備や大学整備について改善すべきもの	
2. 大学のセキュリティについてどう感じているか	
3. 外国語の自習で CALL 教室、MMLL 教室、学生センター1階情報サービス室、情報処理教室、図書館をどの程度利用しているか	
4. 本学の授業以外の教育サービスについてどのように感じているか	
5. 大学からの情報はどこで得ているか	
4. 学生支援	31
1. 学生の悩み	
2. 教育支援	
3. 学生支援活動に対する評価	
4. ハラスメント対策	
5. 経済支援とアルバイト	
6. 大学の寮	
7. 保育支援（大学院生）	
5. 留学・国際交流	46
1. 留学について	
2. 留学生の要望	
6. 進路・就職	50
1. 卒業後の進路	
2. 就職活動	
3. 進路相談の相手	

7. 入試とお茶大生の属性	54
1. お茶大生の属性	
2. 入試	
8. 大学に対する考え方	62
1. 女子大学について	
2. 大学での学び方	
3. 大学在学中の目標	
9. 日常生活	67
1. 大学に来る日数と出席率	
2. 大学生活	
3. メディア利用	
10. 調査方法	82
1. 設計方法	
2. ウェブ調査の特徴	
3. ウェブ調査の成果と課題	

付表

1. 調査票（学部生）	1
2. 調査票（大学院生）	9
3. 基礎集計表（学部生）	16
4. 基礎集計表（大学院生）	38
5. 自由回答一覧（学部生）	63
6. 自由回答一覧（大学院生）	83
7. ポスター	101

執筆担当者

耳塚寛明	お茶の水女子大学 副学長・教育機構長、教育開発センター長	はじめに
半田智久	お茶の水女子大学 教育開発センター 副センター長 教授	9章
中島ゆり	お茶の水女子大学 教育開発センター 特任リサーチフェロー	1,2,3,5,6,7,8章
石田千晃	お茶の水女子大学 教育開発センター 特任リサーチフェロー	10章
猪岡武蔵	お茶の水女子大学 教育開発センター アカデミック・アシスタント	4章
小高麻里子	お茶の水女子大学 教育開発センター アカデミック・アシスタント	自由回答一覧
中村由樹子	お茶の水女子大学 教育開発センター アカデミック・アシスタント	ポスターデザイン